

# 「青森空港管理事務所」って何するところ？

平成 19 年 1 月 16 日号  
(第 2 号 / 全 3 号)  
編集 : 工藤 正興  
電話 : 017-739-2121  
FAX : 017-739-2780

## <はじめに>

◆青森空港の近況について、楽しみながら分かりやすく理解してもらうことを目的として、先月 17 日「青森空港管理事務所」って何するところ？」第 1 号を発信させていただきました。皆様ご覧いただけましたでしょうか？◆第 2 号・3 号では、「青森空港の業務内容」などについて、もう少し具体的にお伝えして参ります。青森空港や飛行機を利用して、「これってどうなっているのだろうか？」ということがご理解いただけると思いますので、雑学好きの方もそうでない方も是非最後までご覧下さい。

## <VeryPoor→滑走路除雪→Good・・・が VeryGood です>

◆皆さんが乗る飛行機のタイヤですが、冬は何タイヤをはいているかご存じでしょうか？実は飛行機は、一年中、同じタイヤをはいているのです。もちろん減ったタイヤは交換しますが、年中、沖縄から北海道まで同じタイヤで離着陸を行っています。◆航空機は、滑走路面の摩擦抵抗( $\mu$  値)や風向風速、雪質などについてエアライン(航空会社)毎に定めた運航基準により離着陸が可能かどうか決まっています、降雪が多い青森空港では、安全運航のために滑走路



除雪には特に力を注いでいます。ほかにも青森空港管理事務所では、飛行場の路面摩擦抵抗値などを調査して、結果を航空局経由で航空機パイロットへ知らせる仕事もしています。どちらも冬季間の安全運航を行うために重要で、特に大雪で除雪回数が 10 回を越える日などは、体力的にも精神的にもハードな仕事

です。◆さて滑走路除雪ですが、いったい何台の除雪車両で行っていると思いますか？◆実はフル稼働した場合、除雪車両台数は 50 台(作業員総勢 120 名程度)におよび、国内最大の除雪体制をもつ新千歳空港の 83 台につづき、国内第 2 位の規模を誇ります。除雪に必要な車両の種類やその台数は、運航便数や降雪量・気温・雪質などの実績により決めています。◆青森空港は新千歳空港に比べ便数は少ないですが、表 1 で比較すると、青森空港は新千歳を抜いて日本一の除雪隊であると思っています。また、青森空港ほど降雪

空港専用大型除雪車両なので、近くで見るとかなりの迫力です。



世界屈指の青森空港除雪隊

表1-青森空港と新千歳空港の除雪

	青森	新千歳
累計降雪量(H17)	834cm	288cm
除雪回数(H17)	352回	226回
雪質	湿った重雪	乾いた軽雪
一回あたり除雪時間	ほぼ同じ	

雪の多い空港は世界的にも少ないと言われていたもので、青森空港除雪隊は世界屈指の除雪隊であるといっても過言ではありません。青森空港の除雪は、全国の空港除雪の「お手本」となることも多くあり、誇らしく思っ

ています。◆滑走路除雪作業終了後（または必要な都度）、雪氷状況調査（「SIチェック」といいます）を行い、滑走路の路面摩擦抵抗（ $\mu$ 値：ミュー値）などの情報をパイロットへ提供します。「SIチェック」とは、エアポート・サーフィス・フリクション・テスター(ASFT)車という専用車両に乗り、路面摩擦抵抗や積雪深・雪質などを調査することで、航空機が離着陸するために使うデータのひとつとなる重要な仕事です。SIチェックでは、路面摩擦抵抗の値を6段階（①Good②Medium to good③Medium④Medium to poor⑤Poor⑥Very poor）で表示します。調査結果はすぐにパイロットへ伝えられ、それを受けたパイロットは「除雪後のランウェイコンディションは Good 了解しました」といった具合で、安心して着陸します。◆飛行場の除雪が必要かどうかの基準は、パイロットからの要求や運航基準、SIチェックの結果などによって決まります。SIチェックの結果滑走路が Very poor ( $\mu \leq 0.20$ ) となった時や、滑走路に 3cm 以上の積雪がある時には除雪が必要となります。SIチェックは、冬季間の航空機安全運航や効率よい除雪をするための重要な仕事です。◆青森空港の除雪は、昨年 NHK でも全国放送されていましたので、ご存じの方もいると思いますが、家から出たくないほどの吹雪のなかでも航空機の運航を可能とってしまう、除雪隊一丸となったチームワークは、交響曲を演奏するオーケストラのようでもあり、隊列の流れるような連携プレーは、まさに組曲を奏でているかのように見えます。皆様も是非、そんな「世界屈指の除雪隊」を実際にご覧下さい。吹雪に立ち向かうあの勇ましい除雪隊を見れば、困難に立ち向かう勇気が湧いてくるかも知れません。◆私ごとですが、SIチェックをするようになって、日常生活でも冬道走行時カカしている時などは、「これだとティームぐらいかな？」などと考えるようになってしまいました。でも分かったからといって雪道運転に有利な訳ではありませんよね。皆さん雪道運転には気を付けましょう。

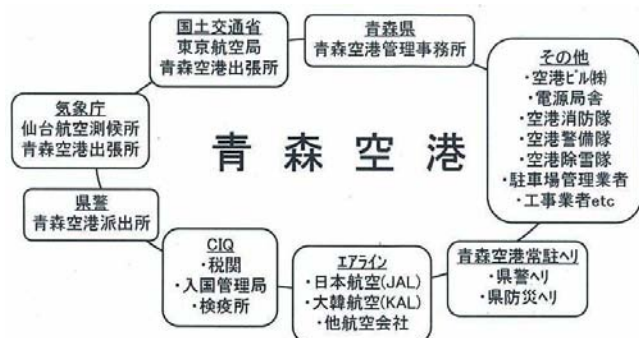


公用車で唯一の外車？(世界ほぼ唯一の測定専用車両)

ASFT(エアポート・サーフィス・フリクション・テスター)車

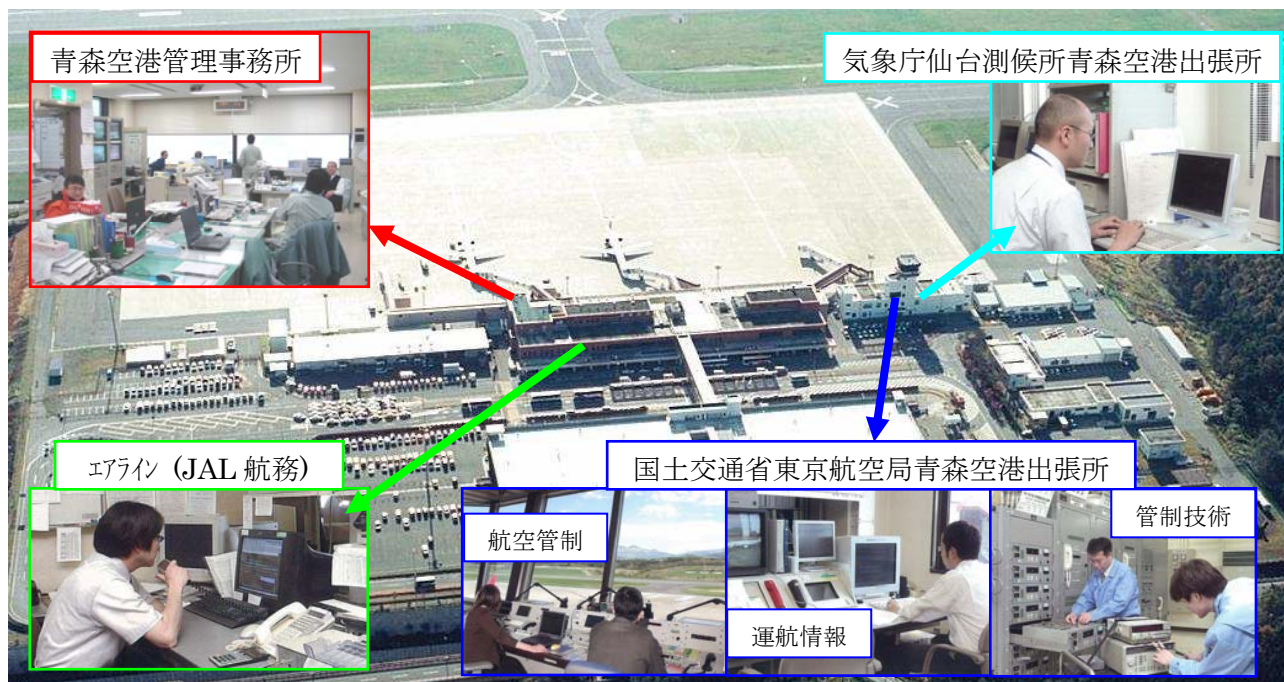
### <青森空港職員の連携プレーは チーム青森 を越えた？>

◆空港では誰が働いているの？と訊ねて、思い浮かぶのはどんな人達でしょうか。管制官・パイロット・客室乗務員・・・あとは誰が思い浮かぶでしょうか？◆空港の規模により人数などは違いますが、空港には実に多くの職種の方々がいて、青森空港でも多くの職員が毎日の安全運航を支えています。そこで、空港職員間のつながりについて、少しご紹介いたします。◆青森空港には、空港の運用管理全般を担当している青森空港管理事務所の他に、航空管制業務などを担当している東京航空局青森空港出張所(以下



CAB)や、空港周辺の気象業務を担当している仙台航空測候所青森空港出張所(以下、気象)の職員が常駐しているほか、国際便就航日には入国管理局・税関・検疫所(以下 CIQ)も来るなど、多くの職員が働いています。◆ではどのような「連携」をしているのでしょうか。滑走路除雪作業を例にあげると、①CAB へ、除雪のための滑走路などの閉鎖を無線連絡。②管制官へ、除雪のため滑走路へ進入する旨無線連絡。③除雪開始。④CAB へ、

滑走路再開時刻を無線連絡。⑤除雪作業終了後、除雪と同時に行っていた SI チェックの結果を管制官へ無線報告。⑥CAB へ、SI チェック結果などの関係書類を提出。⑦エアライン(日本航空など)と、定期便の運航状況を確認し、今後の除雪作業について打ち合わせ。⑧気象へ、今後の天候について情報収集。といった感じで、1分単位の迅速な対応が必要な除雪作業にとって、職員同士の連携は重要です。◆空港保安業務などでも、通常空港管理事務所が発行管理している「青森空港制限区域立入許可証(ランプパス)」は、空港ビル内 CIQ(税関・入管など)制限区域との「共通パス」となると、税関と協定を結び発行等の管理をしています。◆ほかにも、他機関との連携が必要な場面は多く、特に航空局や気象関係職員の方々とは、



「他機関職員」というよりは「青森空港職員」として「一緒に青森空港を支えている」という気持ちで仕事をしています。時にはお互いの立場から衝突することもあります。仕事以外では観桜会や空港職員親善がウイング大会を開催するなどして親睦を深めています。◆ところで話はそれますが、皆さん空港管理事務所の所在地ってご存じでしょうか？上の写真をご覧ください。**青森空港管理事務所は、空港ターミナルの2階東側**にあります。空港有料道路料金所浪岡側にある建物は「青森空港**有料道路**管理事務所」です。よく勘違いされますが、間違えないでくださいね。

### ＜強化が進む空港保安対策＞

◆平成 18 年 7 月、羽田空港で空港職員が滑走路を無断で横断し、空港を一時閉鎖する事件が発生しました。さらに 8 月帯広空港では、不審車両が貨物ターミナルから滑走路内に不法侵入する事件が発生しました。このほかにも国内外を問わず、さまざまな事件が発生し、そのたびに空港の保安対策は強化されていきます。そんな中において、青森空港ではどのような保安対策をしているのでしょうか。青森空港では、「青森空港保安規程」などで保安対策や緊急時の対応方法を規定し、万全の体制を整えています。保安上詳しくお話しできませんが、空港の保安対策や各種訓練について「さわり」だけご紹介します。◆空港では、空港職員も一般の方も関係なく、人や車両が制限区域内に入る場合「青森空港制限区域内立入許可証」が必要となります。空港制限区域へは、警備員のいるゲートにて許可証と本人との確認を受け入場が可能となります。しかし立入許可証があるからといって、管制官の許可無く滑走路を歩いたらどうなるでしょう・・・その時は「不法侵入者が滑走路を歩いている！」となり、管制官などから空港

管理事務所や警察に通報が入り、直ちに不法侵入者対策実施となり「お縄」になります。◆保安対策には日頃の訓練も重要です。青森空港では、不法侵入対策に対し常に万全の体制がとれるように「不法侵入事案対応訓練」を実施しています。今年度は「滑走路を不法侵入車両が走行している」との想定で、実際に滑走路で車両を走らせ、犯人の追跡や捕捉の訓練を実施しました。◆このほかに、「ハイジャック事案対応訓練」も実施しています。今年度の訓練は、天候の影響で訓練に使用する航空機の着陸が遅れ、シリアルに修正が出たことで本番さながらの臨場感ある訓練となりました。◆保安からはそれですが、青森空港ではこのほかにも、実際の航空機を使用した訓練として「消火救難訓練」も実施しています。空港にある空港消防車と青森消防などの消防車からの放水(直接航空機には水をかけない)訓練や、航空機の中から乗客



を救出する訓練・防災ヘリを使っての患者搬送訓練などを行っています。◆また各訓練を行った後は、関係機関とフォローアップを行い、随時改善するように努めています。◆青森空港管理事務所ではほかにも、保安対策に関連して「VIP 対応」を行っています。外国からの国賓や皇族・総理大臣などのVIPが青森空港を利用する場合、特別な対応をすることになります。これも保安上詳しくはお話しできませんが、VIPが到着した場合、所長が航空機の扉までお出迎えし、空港ターミナル内を先導します。また出発のときも所長が航空機まで先導します。VIP対応は、土日祭日・時間(運用時間内)に関係なく必要で、所長が必ず登庁し御先導役を務めています。ほかにも警察や空港内関係機関との連絡調整などのため、所長以外にも、次長や事務所職員(主に総務課)も対応にあたります。この仕事は、空港管理事務所のなかでも重要な仕事のひとつです。◆ここ数年、世界的にテロやハイジャックが頻発していることから、日本の空港や駅でも、ゴミ箱の使用制限や機内持ち込み手荷物の制限などの保安体制強化が図られております。青森空港でも、関係機関一体となり保安体制強化を進めています。

### ＜次号予告＞

次回はいよいよ最終号です。①「航空灯火」②「青森空港管理事務所の勤務体制」③「その他の情報」などの話題について、平成19年2月15日頃掲載する予定です。是非ご覧下さい。